

大学院授業科目

共通領域

令和2年度実施日程

【R2.9.9時点】

京都府立医科大学大学院医学研究科

《 博士課程 》

履修科目届の提出にあたっては、「大学院履修概要」をよく読み、必要な手続きをとること。

授業科目の名称		取得必要 単位数	授業日程(予定)	開講時期	取りまとめ 担当教員
必修	統合医科学概論	1単位	P.8 参照	10月～11月	研究部長
	医学生命倫理学概論1	1単位	P.9 参照	7月～9月	瀬戸山教授
	医学生命倫理学概論2	1単位	P.10 参照	5月～12月	池谷教授
	医学研究方法概論	1単位	P.2～7 参照	5月～11月	研究部長
選択	加齢医科学	4単位 以上	P.11 参照	10月～11月	水野教授
	医療レギュラトリーサイエンス学		休講	休講	—
	応用言語学		P.12 参照	4月～9月	木塚教授
	基礎統計学		P.13～14 参照	10月～12月	長崎教授
	大学院特別講義		随時 日程は都度周知	通年	研究部長

※ 履修要件

【必修科目】 1～3年次の間に履修

統合医科学概論 : 2講以上受講すること。

医学生命倫理学概論1 : 最低3講以上受講することとし(同内容の講義回への出席は1回とカウント)、担当教員が課す課題及びレポートを提出すること。なお、単位認定及び成績評価は、3講以上出席の上、レポートを提出した年度又は3年次の年度末に行う。

医学生命倫理学概論2 : 最低2講以上受講の上、受講した講義の担当教員が課す課題またはテストにおいて60点以上得点すること。

医学研究方法概論 : 「RI研究方法特論」及び「実験動物学研究方法特論」の受講は必須とし、その他2講以上受講すること。

【選択科目】 1・2・3・4年次のうち1年間で履修

加齢医科学 : 2講以上受講すること。

医療レギュラトリーサイエンス学 : 2講以上受講すること。

応用言語学 : 大学院履修概要を参照のこと。

基礎統計学 : 大学院履修概要を参照のこと。

【大学院特別講義】 1～4年次の間に任意履修 ※履修登録は不要

大学院特別講義 : 8回の受講を1単位として認定(受講回数は、原則受講票により各人で管理することとし、単位は、各年度末に受講票を学生課に提出することにより認定される)。

※ 成績評価

平成29年度以降の入学生については、共通領域の必修科目及び大学院特別講義の成績評価(優、良、可、不可)は履修が完了する年度に行う。

令和2年度 医学研究方法概論 講義内容等

1 形態学研究方法特論・実習

項目、講義内容	担当者	日時・場所
遺伝子改変技術を利用したタンパク発現部位同定法	分子病態病理学 藤本講師	9月25日(金) 18:00~19:30 オンライン講義 (Zoom)
<p>遺伝子の機能を理解するには、遺伝子がコードするタンパク質の発現部位すなわち発現細胞の同定と細胞内局在の理解が不可欠である。また、タンパク質の機能を明らかにする上で、相互作用タンパク質の理解が一助となる。本講義では、ペプチドタグ挿入マウス及びビオチンリガーゼ融合タンパク質を用いた研究を題材に、タンパク質機能局在の同定と相互作用タンパク質の同定に必要な免疫組織・細胞染色や分子間相互作用研究の方法論を概説する。</p>		
一般組織化学的研究法	生体機能形態科学 小林講師	9月23日(水) 14:30~16:00 オンライン講義 (Zoom)
<p>一般組織化学的な研究手法について、組織切片の作成方法と免疫組織化学法を中心に、その原理の解説に加え、実際の実験手順や目的にあった実験の選択方法等について概説する。 又、<i>in situ</i> ハイブリダイゼーション法についても概説する。</p>		
形態の科学とバイオイメージング法	生体構造科学 松田准教授	8月28日(金) 18:00~19:30 オンライン講義 (Zoom)
<p>蛍光タンパク(green fluorescent protein;GFP)を用いて蛍光顕微鏡・共焦点顕微鏡で特定分子、オルネガラ、細胞を標識し観察する実験が、簡便性もあり多用されている。本講義では、蛍光タンパクを用いてできることを、FRAP、FRET等の生細胞イメージング法も含めて概説する。</p>		
光学顕微鏡の基礎と細胞・組織観察への応用	細胞分子機能 病理学 田中(秀)教授 望月助教	6月24日(水) 12:50~14:20 第3実習室 (基礎医学学舎 実習棟2階)
<p>組織や細胞の形態を可視化する光学顕微鏡は生命科学の研究に必須のツールである。近年、光学顕微鏡の技術は著しく発展し、蛍光プローブの進歩とも相まって、形態はもとより細胞内分子の動態や細胞機能といった高度な情報の取得も可能になった。このような光学顕微鏡の多様な機能を十分に発揮させるには、光の性質や結像理論などの基本原理の理解が必要不可欠である。本講義では、これらの基本的事項を解説するとともに、通常の明視野正立型顕微鏡、蛍光顕微鏡、共焦点レーザー顕微鏡につき各々の仕組みや取扱い方を解説し、さらに顕微鏡を最大限に使いこなすためのポイントを紹介する。また明視野顕微鏡を用いた観察や顕微鏡画像撮影法につき実習を行う。</p>		

項目、講義内容	担当者	日時・場所
電子顕微鏡使用法	生体機能形態科学 松尾助教	7月9日(木) ①10:30～ ②13:10～ ③14:35～ (※事前予約制) 第3演習室
電子顕微鏡生物試料作製法と観察法について解説する。 なお、本講義は中央研究室の電子顕微鏡利用に必要な電子顕微鏡講演会を兼ねている。(中央研究室電子顕微鏡室、透過型電子顕微鏡(JEM-1220)の新規利用を希望する者は必ず受講すること。)		

2 生理学研究法特論・実習

項目、講義内容	担当者	日時・場所
イオンチャネル研究法	細胞生理学 樽野教授	11月10日(火) 18:00～19:30 場所:未定
イオンチャネルは生体膜を介したイオンの拡散を精密に調節する。様々な性質をもったイオンチャネルが存在し、神経活動をはじめとした全身の様々な生理機能への重要な役割を担っている。本講義では、電気生理学・分子生物学・生化学・分子遺伝学の手法を駆使したイオンチャネル研究法を概説する。		
微小電極による単一ニューロン活動の記録	統合生理学 井之川講師	11月18日(水) 18:00～19:30 場所:未定
無麻酔の覚醒動物に様々な行動課題を学習・実行させながら、脳の単一ニューロンの電氣的活動(活動電位)を金属微小電極を用いて記録する手法について解説する。		
磁気共鳴画像法(MRI)の基礎と応用	運動器機能再生 外科学 生駒准教授 (磁気共鳴室担当)	11月26日(木) 18:00～19:30 場所:未定
磁気共鳴画像法(MRI)の基礎と磁気共鳴室に設置されている動物用MRI装置の説明を行う。また、MRIを用いた研究の概要およびMRIの臨床への応用、研究への応用について解説する。		

3 生化学研究法特論・実習

項目、講義内容	担当者	日時・場所
<p style="text-align: center;">生化学・分子生物学実験法</p> <p>近年の生化学・分子生物学研究において、遺伝子発現解析、転写因子解析および遺伝子組換え生物作製は基本的実験技術である。これらの基礎的知識を再確認し、その実験方法・原理について、実際の学術論文データを参照しながら概説する。また、各々の研究者は、遺伝子組換え生物の持つ人体や環境への悪影響を最小化し、生物の多様性を保持するための方策を遵守する責務を負う。遺伝子組換え実験を実施する上で遵守すべきカルタヘナ法についても解説する。</p>	分子生化学 吉田講師	7月1日(水) 18:00～19:30 図書館ホール
<p style="text-align: center;">質量分析法の薬物スクリーニングへの応用</p> <p>質量分析計(MS)は高感度に質量等の分子構造情報を与える検出法で、操作・保守が簡便で比較的安価なMSの技術開発により、ライフサイエンス領域における汎用機器として近年急速に普及している。また、MSは種々のクロマトグラフと組み合わせることで、生体試料のような複雑な組成を持つ試料の定性・定量に威力を発揮することから、薬物のスクリーニング検査に不可欠なツールになりつつある。本講義ではMSの種類や特徴を説明するとともに、1,000種類以上の薬物やその代謝物を一斉検索する薬物スクリーニング法や未知化合物の検索法を法医学教室で扱った薬物中毒症例を紹介しながら解説する。</p>	法医学 新谷准教授	7月3日(金) 14:30～16:00 図書館ホール
<p style="text-align: center;">薬理学実験のためのマウスを用いた実験動物モデル</p> <p>生命医学研究領域において繁用されているES細胞およびゲノム編集を用いた遺伝子組換えマウスの作製方法の紹介から、表現型の解析および薬理的アプローチによるモデル動物の利用方法の基礎および応用について解説する。</p>	病態分子薬理学 岩田研究准教授	7月14日(火) 18:00～19:30 図書館ホール

4 感染学研究法特論

項目、講義内容	担当者	日時・場所
<p>遺伝子導入と遺伝子発現制御</p> <p>哺乳類細胞に対する遺伝子導入と、遺伝子発現制御の最新技術について解説します。</p>	<p>免疫学 岸田准教授</p>	<p>7月27日(月) 18:00~19:30 図書館ホール</p>
<p>微生物のメタゲノム研究法</p> <p>病原微生物による感染症およびアウトブレイクへの対応には、病原体の迅速な同定が不可欠である。近年のゲノミクスの発展により、ヒトのみならず野生動物における病原体のゲノム情報は十分な蓄積があり、未知(新規)病原体であっても、そのゲノム断片の遺伝子情報を得ることができれば、即座に(近縁)微生物を同定し、以後の対策に応用できる。</p> <p>ここでは、ヒト由来試料からの核酸調製法、特に細菌・ウイルスゲノムの濃縮・精製法を解説し、ハイスループットシーケンサー等を用いて、ヒト由来試料より微生物ゲノムを網羅的に探索し、同定する新技術を紹介する。またウイルスゲノムの遺伝子型と各種疾患の重症度との関連についても解説する。</p>	<p>感染病態学 中屋教授 西岡助教</p>	<p>7月17日(金) 14:30~16:00 図書館ホール</p>

5 分子遺伝学研究法特論

項目、講義内容	担当者	日時・場所
<p>疾患のゲノム解析の方法</p> <p>多因子疾患やがんのゲノム研究方法を解説する。がんゲノム医療の裏付けとなっているサイエンスを理解する。</p>	<p>ゲノム医科学 田代教授</p>	<p>9月28日(月) 18:00~19:30 オンライン講義 (Zoom)</p>
<p>分子遺伝学研究法特論</p> <p>「アポトーシス・細胞周期研究法」</p> <p>アポトーシスや細胞周期に代表される「細胞増殖制御の異常(促進あるいは抑制)」は、多くの疾患に関与する細胞現象である。本講義では、アポトーシスや細胞周期の解析を基盤として、細胞増殖制御に関する研究方法論について、実例を交えて解説する。</p>	<p>分子標的 予防医学 曾和准教授</p>	<p>7月29日(水) 14:30~16:00 第2講義室</p>

6 実験動物学研究方法特論・演習

項目、講義内容	担当者	日時・場所
<p align="center">実験動物学研究方法特論・演習</p> <p>京都府立医科大学動物実験規程及び動物実験における留意事項についての講義・演習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実験動物学概論 2. 実験動物学に関連する法規 3. 動物実験の福祉と倫理 4. 京都府立医科大学動物実験規程 5. 実験動物の取り扱い 	実験動物センター 喜多特任教授	<p>7月7日(火) 17:00~18:30 図書館ホール</p> <p>8月21日(金) 18:00~19:30 オンライン講義 (Zoom)</p> <p>9月3日(木) 14:30~16:00 オンライン講義 (Zoom)</p>

7 RI研究方法特論・演習

項目、講義内容	担当者	日時・場所
<p align="center">RI研究方法特論・演習</p> <p>放射性同位元素 (RI) の基礎的な性質と、ライフサイエンス分野における応用を概説するとともに、実際に RI を用いて研究する上での注意点などを講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 放射線の人体に与える影響 2) 放射性同位元素等または放射線発生装置の安全取扱 3) 放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律 	RIセンター 部門長 勝山研究教授	<p>Google Classroom を活用し、e-Learning 形式で実施</p>

8 生物統計学概論

項目、講義内容	担当者	日時・場所
<p align="center">臨床試験デザイン</p> <p>臨床試験はデザイン・計画の段階から始まり、試験実施・データ管理・モニタリングを経て、データ解析・報告書作成に至る。この各ステップが統計的方法を必要としている。再現性によって結果を保証することが可能な基礎実験と異なり、同じデザインで繰り返すことが困難な臨床試験においては、デザインと手続きの妥当性から結果を保証するしかない。本講義では、ランダム化対照試験の標準的方法、および探索的臨床試験のデザインとして有用と思われるベイズ流の方法について解説する。</p>	生物統計学 手良向教授	<p>6月23日(火) 18:00~19:30 図書館ホール</p>

令和2年度 統合医科学概論 講義日程表

(大学院医学研究科統合医科学専攻(共通領域) 必修科目)

<p>10月7日(水) 18:00～19:30 場所:未定</p>	<p>大学院の研究とは 担当 : 統合生理学 八木田教授 医学研究とは何か、歴史や社会的意義を含めて議論する。また医学研究に向き合う姿勢と倫理に関して議論する。</p>
<p>10月15日(木) 14:30～16:00 場所:未定</p>	<p>近代医学の成立 担当 : 医学生命倫理学 八木准教授 京都療病院創立に関する新知見をテーマに講義する。</p>
<p>10月19日(月) 16:10～17:40 場所:未定</p>	<p>医学研究と利益相反 (Conflict of Interest) 担当 : 医学生命倫理学 瀬戸山教授 製薬企業と研究者との間の癒着など、職務上のさまざまな構造的な要因が研究不正の起る背景にはある。利益相反 (Conflict of Interest) のマネジメントは、利害関係を可視化し、中立な研究が阻害されないように研究環境をガバナンスするものである。本講義では、臨床研究法や海外の動向を踏まえながら利益相反マネジメントの意義と現状と課題について検討する。 ※15分以上の遅刻及び15分以上早くの退出は出席とみなされない。出席及び授業コメントシート提出によって評価する。</p>
<p>10月21日(水) 18:00～19:30 場所:未定</p>	<p>疼痛治療学と緩和医療学 担当 : 疼痛・緩和医療学 天谷教授 緩和医療・緩和ケアの概念・歴史、日本での緩和ケアの現状と課題について概説する。また、がん患者を中心に全人的苦痛に対する緩和の実際を、特になんがん性疼痛の緩和を中心に説明する。</p>
<p>11月6日(金) 18:00～19:30 場所:未定</p>	<p>臨床研究と生命倫理 担当 : 医療フロンティア展開学 中川教授、高木准教授、今井講師 ヒトを対象とした臨床研究を計画し実施する上で必要な医師・研究者としての生命倫理について、法制度、各種ガイドラインを含めて解説する。</p>
<p>11月16日(月) 18:00～19:30 場所:未定</p>	<p>疫学研究の実践～留意点と具体例～ 担当 : 地域保健医療疫学 栗山准教授 臨床医学と基礎医学を融合させる形式での疫学研究は、どのように実践するのか、留意点と具体例を交えて議論する。症例対照研究、コホート研究、介入研究、また難病研究や全国疫学調査、我々の研究取り組みなども概説する。</p>
<p>11月24日(火) 18:00～19:30 場所:未定</p>	<p>予後因子解析 担当 : 生物統計学 手良向教授 予後因子解析は、観察研究や予後調査のデータから重要な情報を得る基本的手法の1つである。しかし、一口に予後因子解析と言っても、その目的は様々であり、目的を整理し、目的に合った統計的手法を用いて妥当な結果を導くことはそれほど容易ではない。予後因子解析の意義は、1)疾患実体を明らかにすること、2)予防法、治療法開発の手掛かりを得ること、3)試験デザインに利用すること、である。本講義では、予後因子解析の基礎となる方法の解説、および事例の紹介を行う。</p>

令和2年度 医学生命倫理学概論1 講義日程表

(大学院医学研究科統合医科学専攻(共通領域) 必修科目)

<p>8月19日(水) 17:30～19:00 オンライン講義 (Zoom)</p>	<p>第1講:生命倫理・医療倫理の諸原則とパターンリズム 担当：医学生命倫理学 瀬戸山教授</p>
<p>8月20日(木) 15:30～17:00 オンライン講義 (Zoom)</p>	<p>生命倫理学(医療倫理学や臨床倫理学)とは何かについて、その学問上の射程と方法論を自然科学や他の人文社会科学との違いの観点から講義する。基本的な分析指標となる自己決定制約の四原理:(1)危害(加害)防止原理、(2)不快防止原理、(3)モラリズム、(4)パターンリズム、及び生命(医療)倫理の4原則:(1)自律尊重原則、(2)無危害の原則、(3)善行・仁恵の原則、(4)正義・公正について検討する。</p>
<p>8月24日(月) 15:30～17:00 オンライン講義 (Zoom)</p>	<p>第2講:遺伝学的情報のプライバシーと遺伝子差別 担当：医学生命倫理学 瀬戸山教授</p>
<p>8月27日(木) 17:30～19:00 オンライン講義 (Zoom)</p>	<p>遺伝子検査技術の劇的な進歩と低コスト化により、遺伝子検査ビジネスが急成長してきている。遺伝学的情報の解明は、遺伝性疾患の治療や予防、そして医療費抑制といった恩恵が期待されている。他方で、保険や雇用その他での遺伝子差別や社会での格差助長という意図せざる副作用が懸念されている。米国の例を題材に検討し、遺伝子差別規制法に内在するディレンマについて理解する。遺伝情報の解明がもたらす「社会的不平等・格差」の是正までも社会が責任を負うべきかについて考える。</p>
<p>9月2日(水) 15:30～17:00 オンライン講義 (Zoom)</p>	<p>第3講:生殖補助医療をめぐる生命倫理の今日的課題 担当：医学生命倫理学 瀬戸山教授</p>
<p>9月2日(水) 17:30～19:00 オンライン講義 (Zoom)</p>	<p>母体血を用いた出生前遺伝診断と堕胎、救世主兄弟(デザイナーベビー)、精子卵子売買、代理出産と生まれてくる子ども法的地位など、生殖医療ビジネスの倫理的諸問題や生をめぐる医療技術へのアクセスの是非や優生思想と障碍の意味について「当事者性」の観点から考える。</p>
<p>9月7日(月) 15:30～17:00 オンライン講義 (Zoom)</p>	<p>第4講:終末期医療をめぐる生命倫理の今日的課題 担当：医学生命倫理学 瀬戸山教授</p>
<p>9月14日(月) 17:30～19:00 オンライン講義 (Zoom)</p>	<p>積極的安楽死や生命維持装置の取り外しや治療停止などの消極的安楽死、尊厳死、重度障害新生児の治療停止、胃ろうなどの終末期医療や臓器売買問題について国内や海外での事例を踏まえて多職種協働による臨床倫理の視点から考える。</p>
<p>9月7日(月) 17:30～19:00 オンライン講義 (Zoom)</p>	<p>第5講:医学研究倫理と倫理審査委員会 担当：医学生命倫理学 瀬戸山教授</p>
<p>9月9日(水) 16:00～17:30 オンライン講義 (Zoom)</p>	<p>本学で生じたディオバン事案など、人を対象にした臨床研究をめぐる研究不正にかかわる構造的な問題、研究審査委員会の役割と限界、被験者のリクルートや二重盲検比較試験など研究倫理をめぐる諸問題について被験者保護やパターンリズムの観点から考察する。</p>

※ 15分以上の遅刻及び15分以上早くの退出は出席とみなされない。出席と署名及びフィードバックコメントシートの提出によって出席点とみなす。

※同じ内容の講を受けた場合は1回のみ出席としてカウントする。

令和2年度 医学生命倫理学概論2 講義日程表

(大学院医学研究科統合医科学専攻(共通領域) 必修科目)

9月18日(金) 16:10~17:40 オンライン講義(Zoom)	人生の終末における心の救い 担当：法医学 池谷教授
	医療者としての死生観、患者およびその家族とのかかわりについて講義する。
6月25日(木) 16:10~17:40 図書館ホール	死と医療と法 担当：松宮客員教授(法医学)
	我が国と諸外国における安楽死・尊厳死に関する法的現状とその問題点について講義する。
12月15日(火) 14:30~16:00 場所:未定	現代の研究倫理の基礎 担当：法医学 池谷教授
	人を対象にした研究、特に医学研究を実施する際に、理解しておくべき現代の研究倫理のルールとその基礎にある研究倫理の考え方について講義する。
12月15日(火) 16:10~17:40 場所:未定	終末期医療の臨床倫理と法 担当：法医学 池谷教授
	終末期医療に臨むに際して、医療者が理解しておくことが求められる倫理的・法的ルール及び考え方、実際の対応方法について講義する。

令和2年度 加齢医科学 講義日程表

(大学院医学研究科統合医科学専攻(共通領域) 選択科目)

日 時	講 義 内 容 ・ 担 当 教 員
10月6日(火) 18:00~19:30 場所:未定	神経変性疾患とタンパク質分解システム 担当：基礎老化学 渡邊講師
	パーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症の遺伝子解析から、異常構造タンパク質封入体の構成成分をコードする遺伝子やタンパク質分解システム(ユビキチン・プロテアソーム系やオートファジー・リソソーム系)関連遺伝子の変異がこれら疾患の発症に関わっていることが明らかになりつつある。本講義では、これら疾患の基礎研究に関する最近のホットピックや我々の研究室のデータを提示しながら紹介する。
10月12日(月) 18:00~19:30 場所:未定	加齢と脳機能 担当：神経内科学 水野教授
	加齢によって生じる神経系の変性過程、特にtoxic gain of functionで生じる種々の神経変性疾患ならびに共通する変性メカニズムとこれに対する治療法開発を概説する。
10月21日(水) 14:30~16:00 場所:未定	認知症と神経病理 担当：分子病態病理学 伊東教授
	高齢化社会において、加齢によって生じる神経系疾患の一つとして認知症は重大な課題である。認知症の原因として種々の疾患が含まれるが、代表的な神経変性疾患の神経病理を概説し、メカニズム解明に向けた研究を紹介する。
11月11日(水) 18:00~19:30 場所:未定	アルツハイマー病 担当：神経内科学 笠井講師
	アルツハイマー病は最も頻度の高い認知症性疾患である。現在有効な病態修飾療法は開発されておらず、その解決は喫緊の課題である。本講ではダウン症との病的類似性から類推されてきたアルツハイマー病の古典的な病態仮説である、アミロイド仮説およびその発展形であるアミロイドオリゴマー仮説と仮説に基づく治療薬開発の歴史的経緯について概説する。また近年発展の著しい核医学的バイオマーカー、髄液・血液バイオマーカーの知見について紹介する。

応用言語学

(大学院医学研究科統合医科学専攻(共通領域) 選択科目)

担当 木塚雅貴 教授

1 Applied Linguistics

The aim of the course is to understand what applied linguistics is all about, how its research is implemented, and what insights we can obtain from its research outcomes. Although applied linguistics is definitely a part of linguistics, it has a close relationship with some aspects of medicine. The course will mainly focus on the features which bridge the gap between language and medicine.

2 Course outline

The course covers the following topics in a series of six classes.

1. What is applied linguistics? (Interdisciplinary study)
2. How do babies/children acquire and develop their first language? (The process of first- language acquisition)
3. How do people acquire, learn, and ultimately master their second/foreign language(s)? (Second-language acquisition/learning and foreign language learning/teaching)
4. How is language processed in the brain? (Neurolinguistics)
5. What relations are there between language and cognitive science? (Language- processing model on grammar and multiple intelligences)
6. How do professionals think about and use their language? (Professional expertise)

Each of the classes will consist of a one-hour lecture, followed by a half-hour essay-composition period concerning the lecture topic.

Student evaluations will be based on the essays and on attendance. Attendance at a minimum of five classes will be required in order to obtain the credits.

The lecture classes will be conducted in English.

A special lecture on tropical diseases in Indonesia is going to be delivered in February in place of one of the aforementioned lectures.

3 授業日程

- | | | | |
|---|---------------------|------------------------|---------------------------|
| ① | 6月2日(火) | 17:00~18:30 | Zoomによるオンライン講義 |
| ② | 6月5日(金) | 17:00~18:30 | Zoomによるオンライン講義 |
| ③ | 7月10日(金) | 17:00~18:30 | Zoomによるオンライン講義 |
| ④ | 8月17日(月) | 17:00~18:30 | Zoomによるオンライン講義 |
| ⑤ | 8月31日(月) | 17:00~18:30 | Zoomによるオンライン講義 |
| ⑥ | 10月30日(金) | 17:00~18:30 | 階段教室西側(本部棟3階) |

基礎統計学

(大学院医学研究科統合医科学専攻(共通領域) 選択科目)

担当 長崎生光 教授
吉井健悟 講師

1 授業内容

統計学の基本原理、考え方を学ぶ。平均値の検定、信頼区間をはじめとし、種々の標準的な手法の原理を学ぶ。さらに“Excel”及び“R”，“EZR”などのソフトウェアを用いた実際的な統計の処理の方法を学ぶ。

2 到達目標

現代では種々の統計処理に何らかの統計ソフトが利用されているが、運用に際しては解析手法の前提やそれらが示す諸々の数値の意味を正しく理解しておく必要がある。そのため、統計学の基本を十分修得することを目標としたい。基本的な考え方が分かれば、実際的な種々の応用においても正しい処理方法が理解できるであろう。

3 授業方法

講義と演習の併用（演習はオフィスアワーとして設定する。）

この科目の受講手続きをされたときは、第1回の講義までに下記のアドレスにメール（携帯メール不可）を送ってください。受講者は、可能であればノート型パソコン(Mac 又は Windows)を持参してください。また、データ整理用ソフトとして“Excel”，分析用ソフトとして“R,” および“EZR”を用います。

(注) “R” はフリーの統計ソフトです。“EZR” は“R” のパッケージです。

4 教室及び授業日（曜日）

講義 金 17:00～18:00

演習 教授室 月 16:00～17:00 火 16:00～17:00

なお、第1回目の講義は 10月2日（金）です。

5 単位認定方法

授業内容の理解度及びレポート課題の達成度によって評価する。

6 その他

基礎統計学1 教授室（下鴨学舎） Tel. 703-4933

メールアドレス

nagasaki@koto.kpu-m.ac.jp

○基礎統計学（長崎教授、吉井講師）

・講 義

場 所 : 基礎医学学舎

	1 週	2 週	3 週	4 週	5 週	6 週	7 週
金曜日	10/2	10/9	10/16	11/6	11/13	11/27	12/4
場 所	未定	未定	未定	未定	未定	未定	未定

・演 習（オフィスアワーとして設定）

場 所 : 基礎統計学教授室（下鴨学舎）

	1 週	2 週	3 週	4 週	5 週	6 週	7 週	8 週
月曜日	10/5	10/12	10/19	10/26	11/9-	11/16	-	11/30
火曜日	10/6	10/13	10/20	10/27	11/10	11/17	11/24	12/1

【連絡事項】

※講義の日程や場所に変更があった場合は、koto メールにてお知らせしますので、定期的に確認するようにしてください。

※共通領域および大学院特別講義の日程等は、京都府立医科大学のホームページにおいても確認することができます（PDF化したものをアップロードしています）。

アクセス方法は以下のとおりです。

京都府立医科大学ホームページ

HOME > 学部・大学院 > 大学院医学研究科 > 共通科目講義日程

<https://www.kpu-m.ac.jp/doc/department/igaku/kougi.html>